

主要対象分野：マッカーサー、第二次大戦、フィリピン戦、連合国軍、米国軍、日本軍、占領期日本、GHQ、朝鮮戦争、東アジア現代史、軍事史

第二次大戦期から日本占領期を経て戦後復興期に至る約30年間の文書（マッカーサー記念文書館と米国国立公文書館）を搭載



Asia in the Twentieth Century General MacArthur and War, Occupation, and Reconstruction in the Pacific, 1941-1972

Asia in the Twentieth Century General MacArthur and War, Occupation, and Reconstruction in the

20世紀のアジアに関する一次資料を電子化して提供する新しいアーカイブシリーズ Asia in the Twentieth Century の第1部 General MacArthur, and War, Occupation, and Reconstruction in the Pacific, 1941-1972 はマッカーサー記念文書館（ヴァージニア州ノーフォーク）と米国国立公文書館の文書（約86万ページ）を収録します。

第二次大戦から日本占領期を経て戦後に至る米国の東アジア戦略を浮き彫りにする マッカーサー・側近・司令部の文書群

本アーカイブでは、占領期を中心とする約30年間に亘る米国の対日・対東アジア戦略がマッカーサー記念文書館収蔵のマッカーサーと側近・参謀、GHQ/SCAP、連合国軍や米軍の総司令部等の文書群によって明らかにされます。総司令部関係文書では、南西太平洋軍総司令部、連合国最高司令官総司令部、米国太平洋陸軍総司令部、米国極東軍総司令部、国連軍総司令部の通信・書簡、作戦報告、業務指令、諜報要録、覚書、議事録、会見記録等々の文書群を提供します。側近・参謀の文書では、フィリピンの対日ゲリラ戦を指揮し、占領期日本では民政局局長を務めたコートニー・ホイットニー（Courtney Whitney）のフィリピン戦関係文書、陸軍参謀ハロルド・イーストウッド（Harold E. Eastwood）の通信や報告書、マッカーサーとともにフィリピンを脱出したバターンボーイズの一人で、占領期日本では参謀第2部部长として諜報活動を指揮したチャールズ・ウィロビー（Charles A. Willoughby）の刊行物や機密資料、バターンボーイズの一人でマッカーサーの参謀長リチャード・サザーランド（Richard K. Sutherland）の書簡や報告書、バターンボーイズの一人でマッカーサーの秘書官を務めたポール・ロジャーズ（Paul P. Rogers）の著作・論文原稿・業務日誌・書簡等の文書類、GHQ 民政局に在籍したクリフォード・スコグランド（Clifford E. Skoglund）が保管した各種報告書を提供します。この他にも、フィリピン戦での従軍経験のあるYMCA職員ウェルドン・ヘスター（Weldon B. Hester）が寄贈したフィリピン戦関係文書、戦争終結からマッカーサー解任に至る時期の無線電報、一般人が寄贈した各種文書類を提供し、マッカーサーを中心とする米国の対日・対東アジア戦略に多方面から光を当てます。加えて、米国国立公文書館が所蔵する文書群、具体的にはマッカーサー麾下諜報部門諜報活動史文書集、日本政府暗号電報を解読したMAGIC文書集、対日戦事情報速報集、GHQ 民間史料局が編纂した『日本占領の非軍事的歴史』、太平洋地域対日軍事裁判関係米海軍文書集がマッカーサー記念文書館の文書群を補います。第二次大戦から日本占領期を経て戦後に至る米国の東アジア戦略、東アジアにおける米国主導の国際秩序と安全保障体制の形成過程、占領期から独立を経た日本の戦後復興過程、戦後日本に対する米国の影響の実態に迫る第一級の資料群です。

収録コレクション

マッカーサー記念文書館所蔵コレクション

連合国南西太平洋軍総司令部文書集【Records of Headquarters, Southwest Pacific Area (SWPA)】(1942-1943年)

1942年4月、連合国の南西太平洋軍が創設され、マッカーサーが最高司令官に着任した。本コレクションは南西太平洋軍の文書集で、諜報関係の文書が大半を占める。

<全体の構成>

- ◆ シリーズII: 情報書簡と文書(740ファイル)
- ◆ シリーズIII: 作戦と計画(56ファイル)
- ◆ シリーズIV: その他文書(16ファイル)
- ◆ シリーズV: 歴史記録索引カード(14ファイル)

連合国最高司令官総司令部文書集【Records of General Headquarters, Supreme Commander for the Allied Powers (SCAP)】(1945-1951年)

1945年8月15日にマッカーサーは連合国最高司令官(SCAP)に任命され、10月2日に総司令部(GHQ)が設置された。本コレクションはマッカーサーの幕僚が保管した文書群で、1945年8月から1951年4月までの期間をカバーする。

<全体の構成と収録文書例>

- ◆ シリーズI: 書簡: 一般(5ファイル)
- ◆ シリーズI: 書簡: 日本の降伏(5ファイル)
- ◆ シリーズI: 書簡: 軍事秘書室(17ファイル)
- ◆ シリーズI: 書簡: 最高司令官への覚書(11ファイル)
- ◆ シリーズI: 書簡: 面談予定覚書(11ファイル)
- ◆ シリーズI: 書簡: 最高司令官用日誌(2ファイル)
『最高司令官用日誌』(1942-45)
『最高司令官用日誌』(1946-49)
- ◆ シリーズII: 一般ファイル(157ファイル)
『対日理事会議題』(1946-51)
『対日理事会議事録』(1946-51)
『日本の産児制限』
『GHQ指令目録 第1巻(指令1-2000)』(1950)
『GHQ指令目録 第2巻(指令2001-2142)』(1951)
『GHQ行政指令目録 第2巻(行政指令2001-4000)』(1950)
『GHQ行政指令目録 第3巻(行政指令4001-6000)』(1950)
『GHQ行政指令目録 第4巻(行政指令6001-7402)』(1951)
『GHQ指令集(NO1-2148)』(1945-51)
- ◆ シリーズIII: 幕僚部民政局(86ファイル)
『選挙報告』(1946)
『日本の政党』
『日本政治の再編』(1949)
『日本政府の組織変化の報告』(1946-48)
『日本の政府と政治概観』(1948-50)
『日本と朝鮮における非軍事的活動要録(第1号～第5号)』(1945)
『日本における非軍事的活動要録(第6号～第35号)』(1946-48)
- ◆ シリーズIII: 幕僚部軍事情報局(18ファイル)
- ◆ シリーズIII: 幕僚部外交局(36ファイル)
- ◆ シリーズIII: 幕僚部天然資源局(8ファイル)
- ◆ シリーズIII: 幕僚部民間情報教育局(7ファイル)
『米国文化科学使節団報告書』
『国立国会図書館設立勧告に関する米国図書館使節団報告』
- ◆ シリーズIII: 幕僚部経済科学局(23ファイル)
『日本の対外資産』(1947)
『シャープ税制使節団』(1949)
『日本の税制と予算計画』(1949-50)
『世界労働組合連盟使節団予備報告』(1947)
- ◆ シリーズIII: 幕僚部国際検察局(23ファイル)
- ◆ シリーズIV: 日本人の請願(3ファイル)
- ◆ シリーズV: 印刷物(12ファイル)
『公衆衛生社会保障使節団報告書』(1947)
『日本占領と極東軍関係データ選集(ケネス・ロイヤル陸軍長官用)』(1949)
『東京電話帳』(1948)
『日本降伏関係文書集』(1945年9月2日)

Pacific, 1941-1972

米国太平洋陸軍総司令部文書集【Records of General Headquarters, U.S. Army Forces Pacific (USAFPAC)】(1942-1947年)

1945年に創設され、マッカーサーが司令官に任命された米国太平洋陸軍総司令部の文書集で、日本本土侵攻作戦や日本本土進駐作戦等の作戦関係文書や日本占領の軍事面の文書を収録。書簡や通信に関しては太平洋陸軍創設以前の1942年と1943年の文書を含む。

<全体の構成と収録文書例>

- ◆ シリーズI: 一般ファイル(38ファイル)
『広島原子爆弾』(1945)
『日本の外国使節団』(1947-51)
『フィリピン民事報告 第1巻』(1945)
『フィリピン民事報告 第2巻(付録)』
- ◆ シリーズII: 書簡(60ファイル)
- ◆ シリーズIII: 情報、一般ファイル(27ファイル)
- ◆ シリーズIII: 情報、朝鮮軍政府(18ファイル)
『朝鮮における米陸軍軍政活動要録』(1946-47)
- ◆ シリーズIII: 情報、情報日報(34ファイル)
- ◆ シリーズIII: 情報、占領の趨勢(3ファイル)
- ◆ シリーズIV: 作戦(51ファイル)
『ブラックリスト作戦基本計画 第3版』(1945年8月8日)
『コロネット作戦』(1945)
『オリフィック研究』(1945)
『参謀第3部作戦報告』(1945年8月1日～1946年2月)
『参謀第3部日次状況報告』(1945年9月～1946年2月)
- ◆ シリーズV: 公式声明、報道発表(13ファイル)
- ◆ シリーズVI: 原田熊雄日記(3ファイル)
- ◆ シリーズVII: 印刷物(15ファイル)

米国極東軍総司令部文書集【Records of General Headquarters, Far East Command (FECOM)】(1947-1951年)

マッカーサーは連合国最高司令官(SCAP)に加え、日本、韓国、琉球諸島、フィリピン、小笠原・マリアナ島弧を管轄する統合軍として1947年1月1日に創設された米国極東軍司令官(CINCFE)を兼任した。本コレクションは極東軍総司令部の文書集で、日本占領に加え朝鮮戦争関係の文書を含む。

<全体の構成と収録文書例>

- ◆ シリーズI: 一般ファイル(97ファイル)
- ◆ シリーズII: 情報、一般ファイル(17ファイル)
- ◆ シリーズII: 情報、民間情報課(17ファイル)
- ◆ シリーズII: 情報、軍事情報課(66ファイル)
- ◆ シリーズII: 情報、その他の情報(5ファイル)
- ◆ シリーズIII: 作戦と計画(43ファイル)
- ◆ シリーズIV: 琉球諸島における米軍政府活動(2ファイル)
『琉球諸島における米軍政府の活動要録』
- ◆ シリーズV: 印刷物(6ファイル)
- ◆ 「日本占領関係データ選集」(1950)
『極東空軍総覧』(1951)
『ゾルゲスパイ事件文書集の一部』(1951)

国連軍総司令部文書集【Records of General Headquarters, United Nations Command (UNC)】(1950-1951年)

1950年6月の朝鮮戦争勃発後、7月に国連軍が創設され、マッカーサーが司令官に着任した。本コレクションは国連軍総司令部に関する文書集で、各種書簡、国連に対する報告書、作戦報告、作戦計画、作戦命令等に関する文書を収録する(73ファイル)。

サザーランド文書集【Papers of Lieutenant General Richard K. Sutherland, USA】(1941-45年)

パターンボーイズの一人でマッカーサーの参謀長リチャード・サザーランドの文書集で、書簡、報告書、諜報要録等を収録。

<全体の構成>

- ◆ シリーズI: 書簡、公式(58ファイル)
- ◆ シリーズI: 書簡、個人(6ファイル)
- ◆ シリーズII: 作戦、計画、訓練、報告: 空軍(26ファイル)
- ◆ シリーズII: 作戦、計画、訓練、報告: 海軍(3ファイル)
- ◆ シリーズII: 作戦、計画、訓練、報告: 一般(47ファイル)
- ◆ シリーズII: 作戦、計画、訓練、報告: 地上軍(2ファイル)
- ◆ シリーズIII: 情報(56ファイル)

ウィロビー文書集【Papers of Major General Charles A. Willoughby, USA】(1947-1972年)

パターンボーイズの一人でGHQ参謀第2部の部長、筋金入りの反共主義者チャールズ・ウィロビーの文書集で、書簡、報告書、諜報報告等を収録。

<全体の構成>

- ◆ シリーズI: 書簡(176ファイル)
- ◆ シリーズII: 印刷物(63ファイル)
- ◆ シリーズIII: 機密資料(6ファイル)
- ◆ シリーズIV: 情報シリーズ(35ファイル)

ホイットニー文書集【Papers of Major General Courtney Whitney】(1942-1947年)

フィリピンの反日ゲリラ戦を指揮し、戦後はGHQ民政局長を務めたコートニー・ホイットニーの文書集で、主としてフィリピンでのゲリラ戦に関する文書を収録。

<全体の構成と収録文書例>

- ◆ シリーズI: 個人ファイル(86ファイル)
- ◆ シリーズII: 人事ファイル、一般ファイル(4ファイル)
- ◆ シリーズII: 人事ファイル、個人ファイル(102ファイル)
- ◆ シリーズII: 人事ファイル、特別ファイル(5ファイル)
- ◆ シリーズIII: フィリピン作戦、精選メッセージ(56ファイル)
- ◆ シリーズIII: フィリピン作戦、メッセージ(157ファイル)
- ◆ シリーズIII: フィリピン作戦、ゲリラ記録(310ファイル)
- ◆ シリーズIV: 索引カードファイル、人事カード(12ファイル)
- ◆ シリーズIV: 索引カードファイル、主題カード(223ファイル)
- ◆ シリーズV: 印刷物(19ファイル)
『フィリピンのゲリラ抵抗運動 第1巻』(1946)
『フィリピン諸島概観 第1巻: 本文と付録』(1943)

ロジャーズ文書集【Papers of Paul P. Rogers】(1942-1945年)

パターンボーイズの一人でマッカーサーとサザーランドの秘書官を務め、後にマッカーサーとサザーランドの関係を描いた本を上梓したポール・ロジャーズの文書集で、書簡や日記、マッカーサーとサザーランドに関する本の草稿等を収録(87ファイル)。

イーストウッド文書集【Papers of Brigadier General H.E. Eastwood, USA】(1942-1953年)

南西太平洋軍参謀次長代理、第5軍参謀長を歴任したハロルド・イーストウッドの文書集で、主として書簡を収録(293ファイル)。

スコグルンド文書集【Papers of Colonel C.E. Skoglund, USA】(1945-1951年)

GHQ 民政局に勤務したクリフォード・スコグルンドの文書集で、GHQ の各部局の報告書等を収録。

<全体の構成>

- ◆ シリーズI: 民政局(33ファイル)
- ◆ シリーズII: 経済科学局、労働組合と労働(6ファイル)
- ◆ シリーズIII: 民間情報教育局(10ファイル)
- ◆ シリーズIV: 公衆衛生福祉局(2ファイル)
- ◆ シリーズV: 天然資源局(5ファイル)
- ◆ シリーズVI: 雑録(文書と報告書)(5ファイル)

ヘスター文書集【Papers of Weldon B. Hester】(1942-1960年)

コレヒドール奪還作戦に従軍したウェルドン・ヘスターが収集したフィリピン戦やマッカーサーに関する文書。

<収録文書>

- ◆ 『パターン、コレヒドール作戦関係文書集 第1巻』(35ファイル)
- ◆ 『パターン、コレヒドール作戦関係文書集 第2巻』(32ファイル)
- ◆ 『パターン、コレヒドール作戦関係文書集 第3巻』(55ファイル)
- ◆ 『パターン、コレヒドール作戦関係文書集 第4巻』(10ファイル)

無線電報集【Collection of Messages (Radiograms)】(1945-1951年)

日本と朝鮮における米国と国連のあらゆる活動を対象とする無線電報を収録(183ファイル)。

マッカーサー演説・声明・講演集【Collection of Periodicals, Newspapers, News clippings, & Speeches】

主として 1942 年から 1963 年までのマッカーサーの演説、声明、講演等を収録(376ファイル)。

一般市民からの寄贈文書【Documents Donated by the General Public】(1932-1952年)

マッカーサーからの書簡やマッカーサーに関する切抜き記事、マッカーサーに関する論文等、一般市民の寄贈文書を収録(280ファイル)。

米国国立公文書館所蔵コレクション

マッカーサー将軍麾下情報活動の歴史【History of Intelligence Activities Under General Douglas MacArthur】(1942-1950年)

南西太平洋軍総司令部参謀第2部の情報活動の記録で、米国極東軍総司令部の民間情報局(MIS)が編纂した(16ファイル)。

<収録文書>

- ◆ 『南西太平洋軍総司令部参謀第2部と関係部隊の略史』(1948)
- ◆ 『フィリピンにおけるゲリラ抵抗運動』(1948)
- ◆ 『日本軍占領中のフィリピンにおける諜報活動』(1948)
- ◆ 『南西太平洋軍、極東軍及び連合国最高司令官総司令部軍事情報部の活動』(1951)
- ◆ 『南西太平洋軍総司令部連合軍情報部の活動』(1948)
- ◆ 『南西太平洋軍連合軍翻訳通訳部の活動』(1948)
- ◆ 『南西太平洋軍連合軍地誌部の活動』(1948)
- ◆ 『南西太平洋軍技術情報班の活動』(1948)
- ◆ 『南西太平洋軍対敵諜報部隊の活動』(1948)
- ◆ 『南西大西洋軍民間情報部の活動』(1949)

日本政府暗号解読:MAGIC 文書集【Intercepted Japanese Messages: The Documents of MAGIC】(1942-1945年)

日本の外務省と在外公館の間で交信された暗号電報の解読文を陸軍省参謀第2部参謀次長室が「MAGIC」SUMMARY」として日次で配布した(1,312ファイル)。

太平洋における軍事諜報: 太平洋地域諜報センター・合同諜報センター速報【Military Intelligence in the Pacific; Bulletins of the Intelligence Center, Pacific Ocean Area, and the Joint Intelligence Center, Pacific Ocean Area】(1942-1946年)

対日戦に不可欠な軍事情報を提供するために、1942年に太平洋諜報センターが創設された。当初は主として海軍の人員で構成されていたが、後に陸軍や海兵隊も参加し、規模を拡大し、合同諜報センターに改称された。本コレクションは情報センターが発行した「情報速報(Information Bulletin)」を収録したもの(463ファイル)。

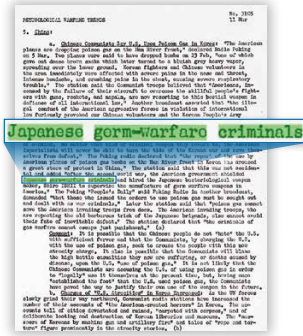
連合国最高司令官歴史資料集【Supreme Commander for the Allied Powers (SCAP) Historical Monographs】(1945-1951年)

GHQ 民間史料局が1951年に編纂した『日本占領の非軍事的歴史』。政治、経済、社会の様々な主題に関する56篇を収録(56ファイル)。

米国海軍太平洋地域戦犯関係文書【U.S. Navy Case Files of Pacific Area War Crimes】(1944-1949年)

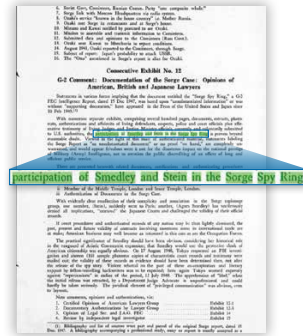
米軍兵士や捕虜や民間人に対する日本軍の戦犯に対して、海軍が実施した戦犯裁判に関する文書(126ファイル)。

GHQ と 731 部隊



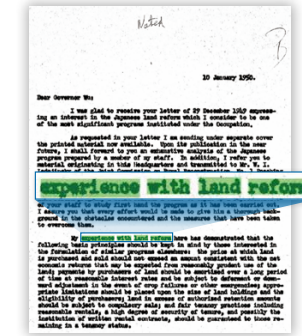
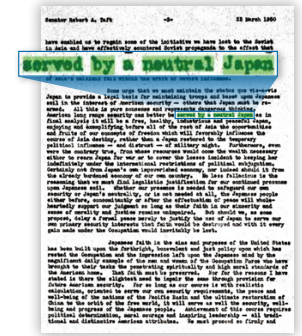
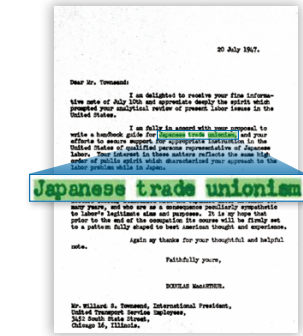
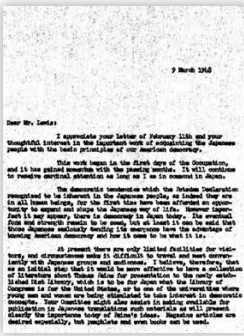
731 部隊に対する GHQ の対応はソ連や中国に攻撃材料を与えた。左は GHQ が東京に細菌戦研究所を設置したことを伝えるモスクワ放送の傍受記録に関する分析で、ソ連に対する抑留日本人の調査要請をかわす口実をソ連に与えかねないコメントしている。右は朝鮮戦争中に傍受された北京放送で、米国は 731 部隊の旧隊員を免責し生物学兵器の開発に協力させた結果、朝鮮半島で毒ガスを使用していると非難している【以上すべて FECOM 文書】。

GHQ とゾルゲ事件



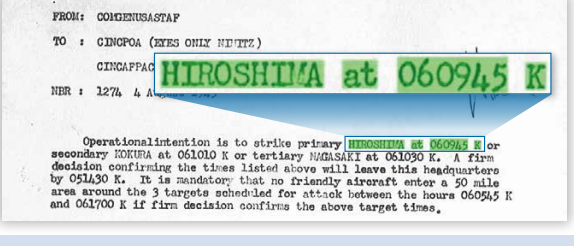
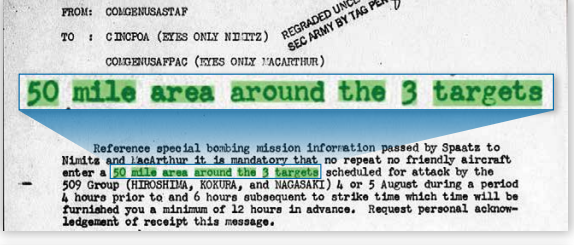
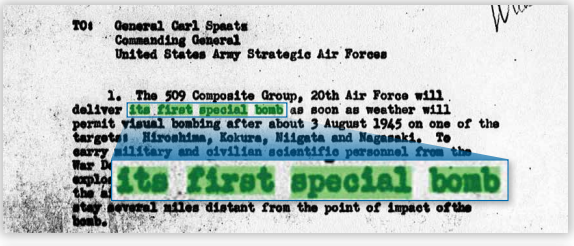
GHQ が押収したゾルゲ事件の資料は冷戦下における米国の反共宣伝のための材料として使われた。上は極東軍参謀第 2 部軍事課課がゾルゲ事件の証拠資料として米国下院非米活動委員会に作成した資料で、特にアグネス・スメドレーとガンサー・スタインに焦点を当てている。2 人がゾルゲ諜報網のメンバーだったことは疑う余地がないとしている。タイトルページには "Private Printing, Not for Circulation" と記されている【FECOM 文書】。

マッカーサーの書簡



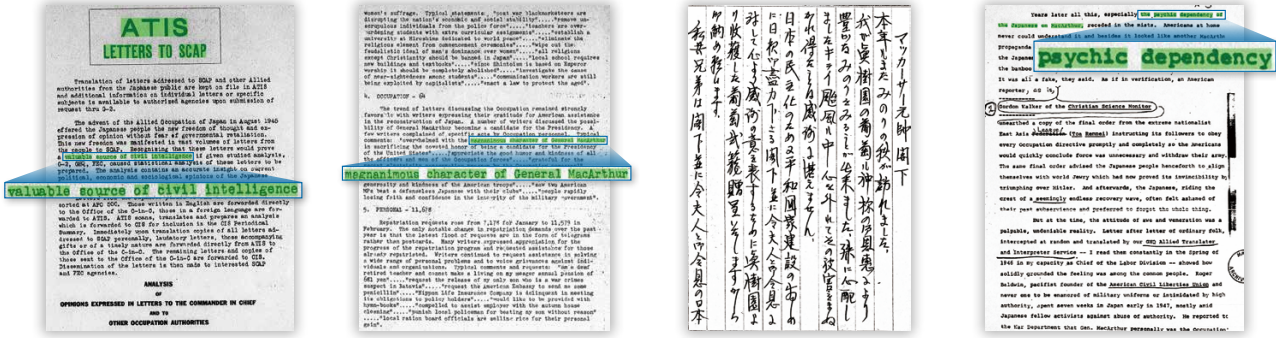
左は民主化途上にある日本にトマス・ペインの思想を広める必要を説くペイン記念委員会のジョセフ・ルイスへの返信で、ペイン関係文献を国会図書館か大学図書館に寄贈する案を述べている (1948 年 3 月 9 日)。左から 2 つめは全米運輸労働組合のウィラード・タウンゼントへの返信で、日本の労働者向け労働組合便覧の作成と労働組合員の米国派遣というタウンゼントの提案に賛成している (1947 年 7 月 20 日)。左から 3 つめはロバート・タフト上院議員に対する返信で、日本との講和条約に関して、米国の長期的安全保障は日本の中立化により確保されると主張している (1950 年 3 月 23 日)。右は台湾の農村改革のために GHQ の土地改革に関する資料の送付を依頼してきた台湾省政府主席呉国樞に対する返信で、土地改革の成功のためには農地解放だけでなく、独立した農業組合運動、農産物価格の安定、農業従事者に対する物流業者の支配からの保護、低利での融資等が必要であると助言している (1950 年 1 月 10 日)【以上すべて SCAP 文書】。

原爆投下前の電信



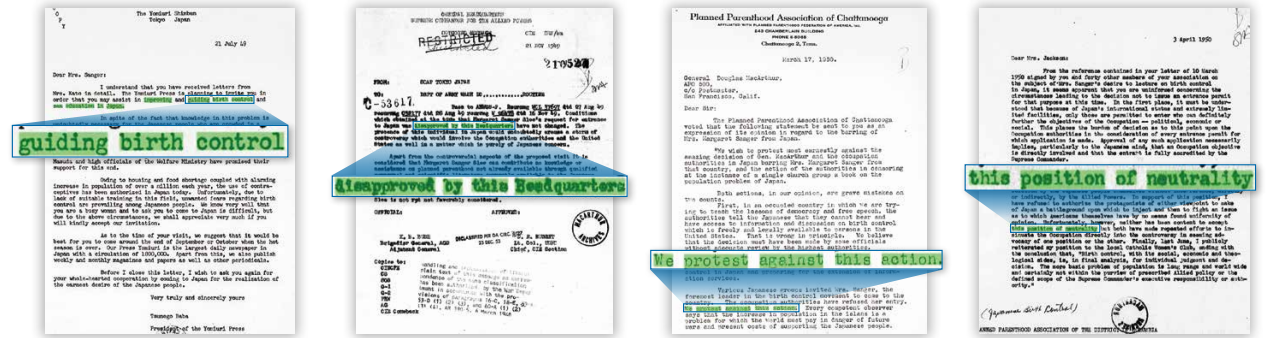
サザーランド文書には原爆投下に関する電信が収録されている。上は 1945 年 7 月 25 日のトマス・ハーティ陸軍参謀総長代行のカーン・スパーツ太平洋戦略航空軍司令官宛電信。「第 20 空軍第 509 混成部隊は天候が許す限り、8 月 3 日以後、広島、小倉、新潟、長崎の攻撃目標の一つに最初の特殊爆弾を運搬するものとする」。中は 8 月 2 日のスパーツ司令官のマッカーサーとニミッツ宛電信。「8 月 4 日または 5 日に投下予定の特殊爆弾については、投下時間の 4 時間前から 6 時間後までは攻撃目標の 3 都市 (広島、小倉、長崎) の 50 マイル圏内に友軍の航空機が入ることを禁ずる」。下は原爆投下に関する 1945 年 8 月 4 日のスパーツ司令官のマッカーサーとニミッツ宛電信。「広島に 6 日 9 時 45 分、小倉に 6 日 10 時 10 分、長崎に 6 日 10 時 30 分に攻撃予定、攻撃時刻は 5 日 14 時 30 分までに確定」。

占領期日本人のマッカーサー宛書簡とその心理分析



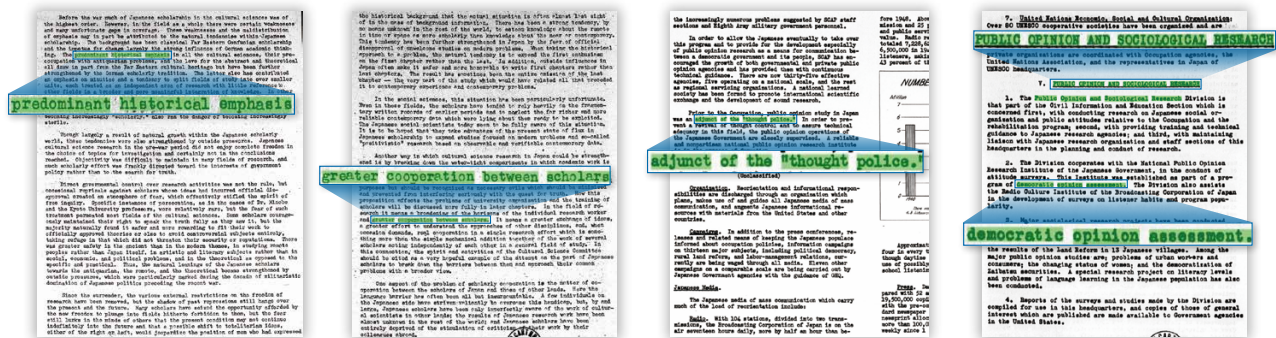
GHQは一般市民のマッカーサー宛手紙や検閲を通して日本人の国民感情の把握に務めた。左はマッカーサー宛の手紙を分析したもの。ATISは戦時中から日本語の英訳に関わった連合軍翻訳通訳局【FECOM文書】。左から2つめはマッカーサー宛書簡を分析したもので、日本人はGHQの占領政策に非常に好意的で、マッカーサーを大統領になり得る偉大な人物と見なしている【FECOM文書】。左から3つめは救世軍車井療養所事務長竹下為治のマッカーサー宛書簡。「日本の民主化のため平和国家建設のためご尽力下さる閣下、令夫人、令息にたいして感謝の意を表すために果樹園より収穫した葡萄2籠贈呈いたします故、お納め願います」【SCAP文書】。GHQ労働科学局に勤務したセオドア・コーエンは後に占領期に関する著書The Third Turn: MacArthur, the Americans and the Rebirth of Japanを上梓した。右はこの著書のグラの占領期の日本人の心理を分析した箇所、占領政策がマッカーサー個人に人格化され、日本人はマッカーサーに心理的に依存していると分析している【Documents Donated by the General Public】。

マーガレット・サンガー来日計画とGHQの来日禁止措置



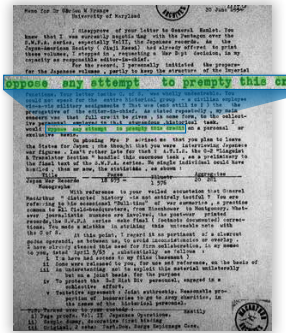
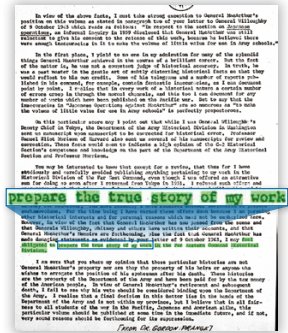
占領期日本では食糧や住宅不足の中で人口増加がクローズアップした。過剰人口を解決するため日本の産児制限協会は産児制限の世界的権威マーガレット・サンガーの招聘を計画した。左はスポンサーになった読売新聞の社長馬場恒吾のサンガー宛書簡で、来日して産児制限の教育を行うことを依頼している【SCAP文書】。しかしGHQはサンガーの来日を承認しなかった。左から2つ目はGHQから陸軍省宛書簡で、サンガーの来日はGHQを論争の嵐に巻き込むことになるため承認しないと伝えている【Collection of Messages】。GHQによる不承認のニュースは米国に伝わり、産児制限の推進団体やプロテスタント教会等から抗議の書簡がマッカーサーに送られた。左から3つ目はテネシー州の家族計画協会の書簡【SCAP文書】。これを受けて、マッカーサーは各団体に共通の書簡を送り、GHQの決定に関する弁明を行った(右)。GHQの決定の背景には産児制限に反対するカトリック教会の圧力があつたとの報道を念頭に、GHQはいかなる団体からの圧力を受けず、中立の立場に立っていることを強調している【SCAP文書】。

占領期日本における米国流学問の導入



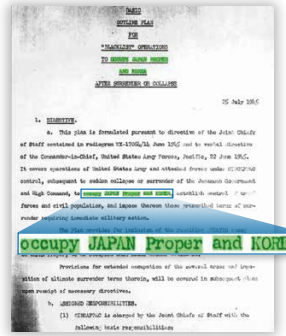
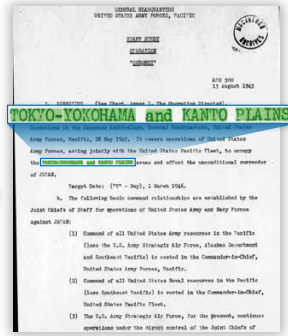
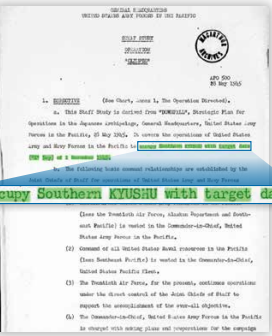
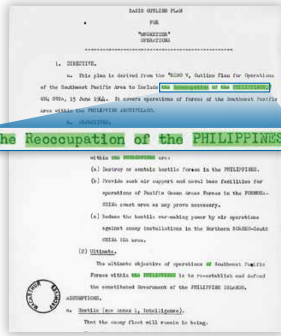
占領政策は米国流学問の導入という形で、日本の学問にも影響を与えた。左と左から2つ目は文化科学使節団の報告書の一節で、日本では中国やドイツの学問の影響が大きく、政府に対する批判的な研究ができにくかったため、学問が歴史や抽象的理論に偏重し、現在の問題が蔑ろにされていると指摘し、研究者の共同研究や研究成果の英語発表を提言している【SCAP文書】。世論調査も占領期に導入された。左から3つ目は1949年にケネス・ロイナル陸軍長官用にGHQが作成したSelected Data on the Occupation of Japan and the Far East Commandの一節で、日本では占領前は世論調査が思想警察の補助装置であったと述べている【SCAP文書】。米国流世論調査の導入に大きな役割を果たしたのが民間情報教育局の世論社会調査部。右は民間情報教育局の任務と成果をまとめた文書の一節で、ラジオ聴取者の調査で日本放送協会(現NHK)の放送文化研究所を支援したと述べている【スコグランド文書】。

マッカーサー戦史を巡るウィロビーとプランゲ



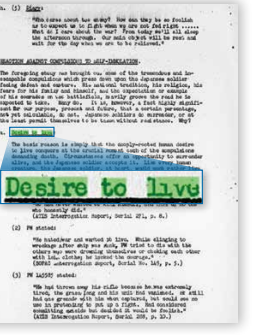
GHQではチャールズ・ウィロビー率いる参謀第2部の歴史課で、メリーランド大学のゴードン・プランゲを編集チーフとして戦史編纂作業が進められ完成に漕ぎつけた。しかしマッカーサーが満足しなかったため、戦史が日の目を見ることはなかったが、編纂作業に携わったJ・フォレストとC・カワカミに取材した『The Reporter』誌(1952年10月号)の記事(左)が出るに及び、戦史の存在が明らかになった。左から2つ目は記事の2ヵ月後にプランゲからウィロビーに送られた手紙の1節。記事の証言の背後にプランゲの存在を見て取ったウィロビーが自身を激しい言葉で中傷していることに傷んでいる様子が文面から伝わってくるが、自身は記事とは関係ないと断言している。左から3つめは12年後のマッカーサーの死の直後にプランゲがハムレット陸軍参謀総長代行に送った手紙で、戦史課での編纂作業の真実を本にまともにと申し出ている。右はこれを耳にしたウィロビーがプランゲに送った手紙のメモで、プランゲの申し出を容認しないと述べている【以上すべてウィロビー文書】。

日本本土侵攻作戦・占領作戦

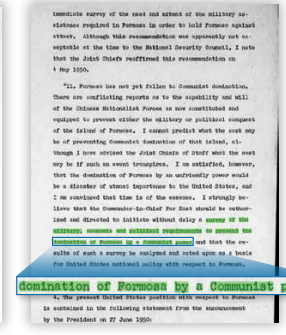
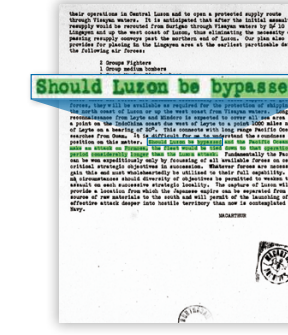


南西太平洋地域総司令部文書や極東軍総司令部文書にはフィリピン戦のレノ作戦やマスケティア作戦、日本本土侵攻作戦のオリンピック作戦やコロンネット作戦、日本全土占領作戦のブラックリスト作戦等、米軍が策定した様々な作戦に関する文書が収録されている。左はフィリピン奪還を目的としたマスケティア作戦に関する1944年7月10日の文書【SWPA文書】。左から2つ目は1945年11月1日を期日に九州南部占領をめざすオリンピック作戦に関する1945年5月28日の文書【USAFPAC文書】。左から3つ目は1946年3月1日を期日に関東平野占領をめざすコロンネット作戦に関する1945年8月15日の文書【USAFPAC文書】。右は日本全土と朝鮮半島の占領に関するブラックリスト作戦に関する1945年7月25日の文書【イーストウッド文書】。

日本軍兵士の心理分析

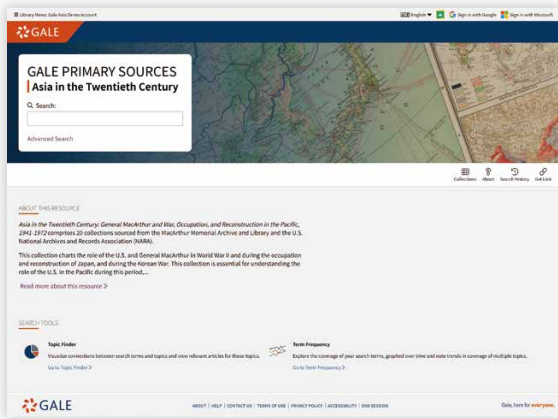


台湾とマッカーサー

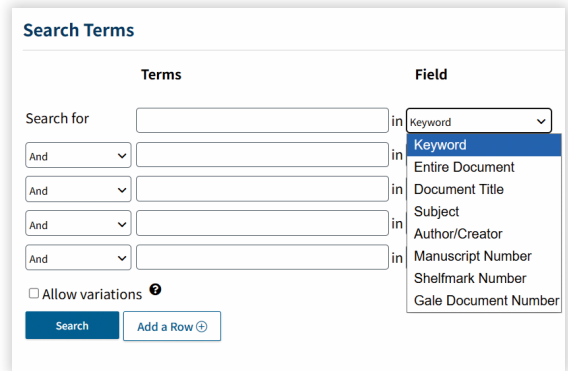


米軍は日記の記述や捕虜の証言を通して、日本人兵士の心理を分析し報告書を作成した。左は報告書の一節で、日記をつける習慣が普及し日記に派手な表現が頻出するのは、自己演出に向かいやすい日本人兵士の心理に由来すると分析している。右は日本人兵士には自己犠牲への強迫観念が強いとしながらも、これに反発する傾向も認められるとして、その原因を内面に根ざした生きることへの渴望に見ている【以上すべてSWPA文書】。

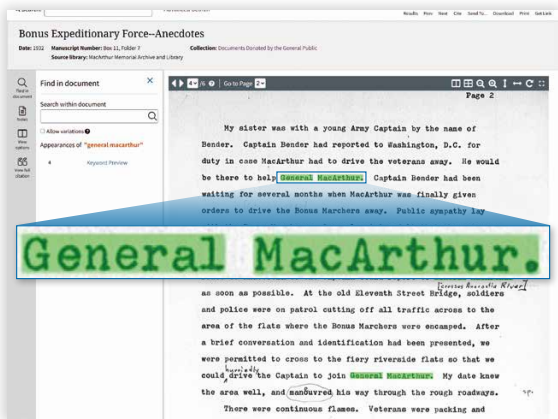
米軍では戦争末期に台湾に侵攻するコースウェイ作戦が検討されたが、フィリピン侵攻を優先すべきと考えるマッカーサーは反対した。左はマッカーサーの統合参謀本部宛書簡で、ルソンを迂回し台湾に侵攻すれば、ルソン以上に長引くだろうと主張している【USAFPAC文書】。戦後、朝鮮戦争直後の1950年6月27日にトルマン大統領は台湾中立化宣言を発表するが、右はその直前の6月14日にマッカーサーが統合参謀本部に送ったメッセージ。中国共産党の台湾支配を阻止するための軍事・経済・政治要件の調査の必要性を訴えている【FECOM文書】。



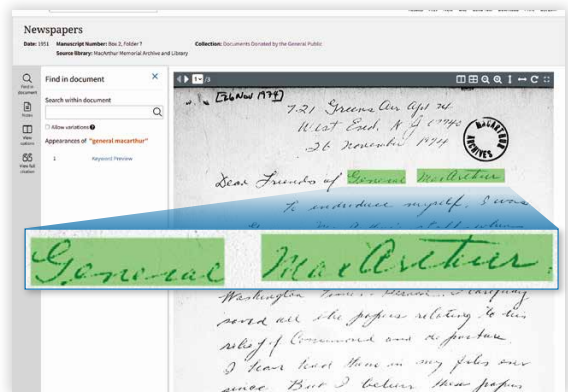
トップページ



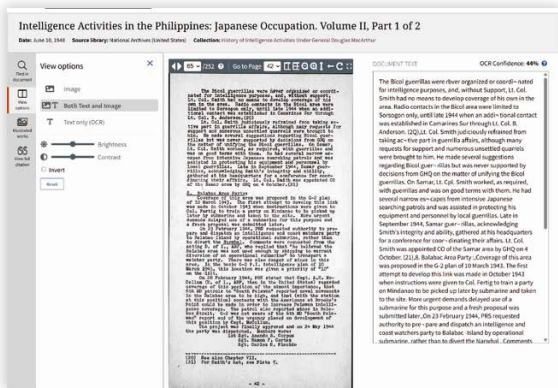
詳細検索 (検索範囲の指定・掛け合わせ検索・ファジー検索)



一字一句をフルテキスト検索、検索語はハイライト表示



手書き文書もフルテキスト検索できる手書き文字認識を実装



文書表示画面では手書き文書を含め、文書イメージとOCR/HTRテキストを左右見開きで表示することができます

Manuscript Number	Document Title	Date
Box 87, Folder 2	Accomplishments, First Year of Occupation	n.d.
Box 87, Folder 3	Constitution for Japan, English Translation	May 6, 1946
Box 87, Folder 4	Constitution for Japan	May 3, 1947
Box 87, Folder 5	Japanese Constitution	n.d.
Box 87, Folder 6	Japanese Constitution, Third Anniversary Statement	n.d.
Box 87, Folder 7	Japanese Election File	January 13, 1946
Box 87, Folder 8	Election Report	April 22, 1946
Box 87, Folder 9	The National Diet	n.d.
Box 87, Folder 10	The National Diet: Abstract of Tentative Platform of Liberal Party	March 11, 1948
Box 87, Folder 11	Members of House of Representatives, National Diet	January 1, 1948
Box 87, Folder 12	Rules of the House of Councilors, National Diet	June 28, 1947
Box 87, Folder 13	Rules of the House of Representatives, National Diet	June 28, 1947

コレクション毎に原資料所蔵機関の文書番号、文書タイトル、年代を示した一覧ページが設けられ、各文書にハイパーリンクされています

データベースの概要

- ◆ 収録資料：タイプ打ち原稿、手書き文書、印刷物、記事切り抜き(約 86 万ページ)
- ◆ 収録資料の期間：1941 年-1972 年
- ◆ 収録資料の言語：英語他
- ◆ 原資料所蔵機関：マッカーサー記念文書館、米国国立公文書館
- ◆ 機能：ページ送り、画面拡大・縮小、全画面表示、輝度・コントラスト調整のビューワ機能の他、印刷、PDF ファイルのダウンロード、OCR/HTR テキストのダウンロード、書誌自動生成、書誌情報のエクスポート、メール送信、Google / Microsoft ログインとクラウド連携を実装



無料トライアルをご提供しております。

商品に関するお問い合わせは、センゲージラーニング株式会社までお願いします。

Tel : 03-3511-4390 E-mail : GaleJapan@cengage.com URL : www.gale.com/jp